

平成30年度

# 自己評価報告書

平成31年3月



# 日本航空専門学校の沿革

1932年(昭和7年)	10月	・甲府在郷軍人航空研究会を母体とし、航空発動機練習所開設
1933年(昭和8年)	2月	・山梨県中巨摩郡玉幡村に40万平方メートルの飛行場を開設
1936年(昭和11年)	8月	・財団法人山梨航空研究会を設立し山梨飛行場を設置。サルムソン機を使用して、飛行士養成を開始。所有機数10機
1939年(昭和14年)	7月	・山梨航空技術学校設立認可を受ける
1988年(昭和63年)		・熊谷陸軍飛行学校甲府分校が設置され、飛行場を共用。通信省航空局より200名、南方航空岡9326部隊より300名の整備委託生を収容、在校生2,000名となる ・卒業生は陸軍航空廠へ軍属として全員優先採用される
1942年(昭和17年)	1月	・国家の要請により山梨航空機関学校と改称 ・航空整備士養成の専門校となる
1945年(昭和20年)	8月	・終戦により閉校
1960年(昭和35年)	3月	・学校法人梅沢学園、山梨航空工業高等学校の設置認可を受ける(学校教育法第一条による高等学校)
1964年(昭和39年)	6月	・学校法人日本航空学園、日本航空工業高等学校と改称
1970年(昭和45年)	10月	・日本航空専門学校(各種学校)の設置認可を受ける
1974年(昭和49年)	1月	・日本航空大学校と改称
1976年(昭和51年)	5月	・日本航空大学校(専修学校専門課程)の認可を受ける
1988年(昭和63年)	4月	・日本航空学園千歳校(専修学校専門課程)開校
1992年(平成4年)	4月	・日本航空大学校の航空整備科、航空電子科、メカトロニクス科の3学科を日本航空学園千歳校と統合する
1994年(平成6年)	4月	・日本航空学園千歳校を日本航空専門学校と改称
1995年(平成7年)	4月	・運輸省航空局航空整備経歴認定施設となる
	4月	・空港技術科を新設する
	5月	・白老滑空場開設
	9月	・労働省技能講習指定教習機関となる
1998年(平成10年)	4月	・郵政省無線従事者養成施設となる
1999年(平成11年)	4月	・運輸大臣指定航空従事者養成施設となる
2001年(平成13年)	4月	・航空整備科を3年制に改編 ・航空工学科開設
2002年(平成14年)	4月	・航空システム科を新設 ・航空工学科を航空技術工学科に改称
2003年(平成15年)	4月	・白老町に日本航空専門学校白老校開設 ・空港技術科パッセンジャーサービスコース開設
2004年(平成16年)	3月	・北海道労働局長登録教習機関となる
	4月	・国土交通大臣指定航空従事者養成施設となる

2006年(平成18年)	4月	・白老校に空港技術科航空観光ビジネスコースを開設
2007年(平成19年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一等航空運航整備士コース新設、テストコース指定</li> <li>・航空整備科を一等航空運航整備士コース、二等航空整備士コース、二等航空運航整備士コース、システムコース技術コースの5コースに改編</li> <li>・一等航空運航整備士基本技術課程が国土交通大臣指定航空従事者指定養成施設に指定される</li> </ul>
2009年(平成21年)	4月	・航空技術工学科を航空整備科に統合
2010年(平成22年)	4月	・一等航空運航整備士(B767)専門課程が国土交通大臣指定航空従事者指定養成施設として指定をうける
2011年(平成23年)	6月	・空港技術科航空観光ビジネスコースを商業分野として国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)に改編認可をうける
2012年(平成24年)	4月	・国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)新設
2015年(平成27年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科海外研修コースに改称</li> <li>・航空整備科システムコース廃止</li> </ul>
2016年(平成28年)	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(空港技術科、国際航空ビジネス科)
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際航空ビジネス科(2年制)の名称を国際航空ビジネス科エアラインコースに改称</li> <li>・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科エアライン・留学コースに改称</li> </ul>
2017年(平成29年)	11月	キャビントレーニングセンター新設
2018年(平成30年)	1月	女子寮(アメリアホール)新設
	2月	文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(航空整備科)
	4月	白老キャンパスの国際航空ビジネス科を新千歳空港キャンパスへ移転 学科定員を40名から80名に変更、男女共学とする

# 日本航空学園 建学の精神

日本航空学園の創立者「梅沢義三」は、建学の精神を『航空教育を通して愛国の精神を培う』と心に決め、昭和7年に「山梨航空機関学校」を設立しました。航空教育を行い、国家に有益な航空技術者を養成するにあたり、自分を愛し、家族を愛し、郷土を愛し、国を愛し、そして人類の共存に責任を持てる航空技術者であればこそ、愛機心を以て操縦や整備に当たることができるとの信念に基づいて教育を始めました。

二代目理事長「梅沢鋭蔵」は、創立者の建学の志を基に、校訓を定めました。

そして、現在の理事長「梅沢重雄」は、建学の志や先代が定めた校訓を基に、より豊かで優れた人間力を持つ人材の育成を目指して、「J-ship」という教育コンセプトを定めました。

## 校訓

- 一、礼節を尊び忍耐努力の精神を体得すべし
- 一、熟慮断行以て風林火山たるべし
- 一、至誠一貫信義を重んずべし
- 一、質実剛健文武両道に徹すべし
- 一、敬神崇祖以て伝統を承継し祖国を興隆すべし

・ **J** は、**JAPAN**（日本）、**JAA**（日本航空学園）の略称頭文字

日本航空学園で学ぶ日本人、外国人の学生、生徒を **J-ship** で育みます。

・ **S** は、**SPIRIT**（精神）、**SOUL**（魂）の略称頭文字

豊かな自然、良き伝統、良き慣習、そして家族や友人、先輩、後輩などすべてのモノ、人に対して感謝と慈愛の気持ちを忘れない人間としての健全な精神、魂を持つ人であれ。

【自由と規律】

航空機は大空を自由に飛ぶことができます。しかし、飛行するためには安全が最優先されなければなりません。

このため厳しい規律に従い、整備士やパイロットは、安全運航に努めています。航空技術者としての誇りは、大空を自由に飛ぶために、最大の努力ができる不撓不屈の精神を持っていることです。己の精神と技術により、国を世界を支えていることにあります。

規律は安全への第一歩、学生生徒が自由に夢を描き、語りながら、社会人としての礼節、そして、生き方を学びます。

【想像と創造】

想像しなければ創造出来ません。人間の行為は全て想像→行動→創造と進みます。想像は願望、要求であり出発点、計画、目的、目標です。

生き甲斐を感じ充実した時間に満たされた自分を想像することにより、自分の精神が出来、創造活動が活発化し、魂が完成していきます。

心の態度で成功が決まるのです。

・ **H** は、**HEART**（心）、**HEALTHY**（健全）の略称頭文字

美しいものは美しいと感じ、良いと思えるものには素直に感動し、喜怒哀楽には正直で、他人を常に思いやることのできる純粋で、きれいで、奥深い心、感性を持つ人であれ。

【共感共創】

全国そして世界から集う学生生徒は一人一人が皆素晴らしい輝きを秘めた原石です。

ダメだ、出来ないなどマイナスの言葉を全て一掃し、出来る、可能だ、好きだ、嬉しい、楽しい、美しいなどプラスの発想で心を磨きあげるのです。

教職員も学生生徒も一緒になって学園全体を黄金で輝く愛のベールで包み、潜在する能力を開発し、学習やクラブにとともに取り組み、行事を創り試合やコンテストにチャレンジし、喜

びや成功を感じ、そして感謝して共に涙を流す人間的な心を育みます。

### 【健全性の育成】

健全とは心身共に健やかであることを意味していますが、健全な娯楽、健全な社会、健全な家庭、健全な学校があってはじめて健全な青年に育成されます。学校と保護者は協力し合い、外部からの感情や刺激による衝動により言動が支配されることなく、分別や筋道をわきまえ冷静さを忘れず自分と所属する集団が正しく 保持できる状態を保てる公德心と健全性を育みます。

## ・ I は、IDENTITY（自己）の略称頭文字

母国と自分に誇りを持ち、自己の真の確立を実現するため、自分ならではの長所、個性をしっかりと伸ばしていく忍耐、努力を惜しまない人であれ。

### 【長所伸展】

人間は誰でも得意、不得意があります。これは個性です。不得手なものを解消することに囚われ過ぎると時間と労力がかかり却って自信喪失になります。得意なもの、好きなことを拡大することにより、短所はカバーされてしまいます。万人全て大いなる可能性と能力を秘めています。自己を信じることです。

### 【国際理解】

学園建学の地、山梨県甲斐キャンパスの万国旗掲揚塔に次の文章があります。

「大空は世界をつなぐ 友愛は平和を築く 海外から集いし若者達よ 全国から集いし若者達よ大地に立て 空を舞え」本学園にはアジアをはじめ世界各地からの留学生が在学しています。人種、言語、宗教、政治的信条、軍事力、経済力を越えて人類愛という友情で結びつき、共に苦しみ同じ喜びを分かち合える人間性 を育みます。航空人はエアラインで世界を結ぶ重要な使命を持っています。

それには、常に自国を意識して郷土愛、祖国愛を育み、共に助け合いそれぞれの祖国の繁栄に努めることの出来る大きな心の器を持った人間性を育むことが大切です。

## ・ P は、POWER（力）の略称頭文字

守るべき自分の夢、母国の未来、愛すべき家族の幸福を守るために必要な知力、体力を、不屈の志を持って鍛え上げていく文武両道に徹した力のある生き方のできる人であれ。

### 【目標に強く進む】

航空機は常に目的地に向い自差や偏差の修正を行い横風に流されず、向い風にも負けず、中間目標を捕捉しながら飛行し続ける強いパワーが必要なのです。そして着陸まで気を抜かず安全に留意するのです。学園は常に本物に触れ、体験しながら常に目的を忘れず意識し、目

標に向い進むことを大切にしています。これが、学習することの基本となります。そして、最終目的を絵や写真のようにいつもイメージすることが大切です。

#### 【強運となる】

気運を背負ってる人間には強いエネルギーがあります。そのエネルギーがさらに強い運を呼び込むのです。運氣とはエネルギーです。引力のように其のエネルギーに引かれて幸運の女神はドアを開きます。成功を自分の力量と自惚れない、失敗を運や人のせいにしないで、全ての結果を絶対的肯定して感謝し、またチャレンジする度に運が強くなってパワフルな人生が歩めるのです。

## 日本航空専門学校のブランドプロポジション

「自由と規律」の人間教育と専門教育を通して感性と知性を  
磨き社会に役立つ人財を育成する

## ■平成30年度 自己評価について

学校法人日本航空学園日本航空専門学校は、昭和63年に開校し、以来、航空業界へ有益な人材を多数輩出して参りました。充実した教育環境の中で実習・訓練を重ねた学生たちの就職率は、平成24年度以来100%を記録しています。今後も企業のニーズに即して教育環境の整備に努め、社会の発展に貢献できる人材の輩出に努めていきます。

本校では、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、自己評価に取り組んでおります。より良い自己評価を目指して教職員並びに評価委員が真摯に取り組み、現状の把握、課題及び今後の方向性を協議して参りました。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

### 1、対象期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

### 2、実施方法

- (1) 学内に「自己評価委員会」を設置し評価を行っています。
- (2) 評価は「専門学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果は、状況および課題と改善についてホームページで公開します。

### 3、自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施しています。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

### 4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切      3：ほぼ適切      2：やや不適切      1：不適切



## ■ 1 教育理念・目標

評価項目	評価(4～1)
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色を示しているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4

### 状況および課題と改善策

- \*教育の理念・目標においては建学の精神をもとに、校訓・Jship・ブランドプロポジションなど具体的かつ明確に定め、学科ごと企業との連携を図り社会に求められる人材育成を行っている。
- \*航空業界における人材不足に対応できるよう、社会経済のニーズを踏まえ定員を増やしさらに本格的なモックアップ施設（キャビントレーニングセンター）において実務に即した実践教育を行い、即戦力になる人材の育成をすることで本校の特色を示している。
- \*教育理念、人材育成像などの周知は本校だけでなく学園全体で共有し、SNS などにより最新の情報を発信している。また隔月で授業、ボランティア、学校行事など、学校での様子を AVIATION NEWS としてまとめ保護者だけでなく、高等学校や資料請求者にも送付している。

## ■ 2 学校運営

評価項目	評価(4～1)
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### 状況および課題と改善策

- \*航空業界に勤める人材不足が続く中、本校は優れた人材を育成するために、施設・設備の充実を図り、学生の教育環境を改善している。

- \*キャビントレーニングセンター、女子寮（アメリカホール）、男子寮（リンドーグホール）の新築・改築後の活用状態は良好である。また、学生数増加のため「普通教室棟」、航空整備科「技能審査室」、国際航空ビジネス科「キャビントレーニングセンター2」の建築を事業計画に沿った運営方針に基づき実行されている。
- \*運営組織については、航空整備科、国際航空ビジネス科、空港技術科の3学科が、同じキャンパス内となり、各学科状況などが共有しやすくなり、意思決定機能などが明確になった。
- \*本学園規程により、人事・給与に関する制度は整備されている。
- \*教育活動に関する情報公開については、各種行事活動（イベント・ボランティア等）を始め、就職状況、学校近況報告などを随時更新公開されている。
- \*業務の効率化については、クラウドを利用したグループウェアシステムを導入して4年目になり、教職員の活用スキルアップも伴い、学校全体が迅速な業務効率化が図れるようになった。

### ■ 3 教育活動

評価項目	評価(4～1)
教育理念に沿った教育課程の編成・方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
関連分野における先端的な知識・技能的な修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### 状況および課題と改善策

- \*教育理念に沿った人間教育を継続しさらなる資質向上を進めていく。
- \*e-ラーニングによる予習、復習を継続し教育到達レベルのさらなる向上を目指す。また、教室棟、キャビントレーニングセンター棟の新築、電子黒板等の増台などを進めさらに教育の効率化を図る。

- \* キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの見直しを関連企業と連携し進めているがさらなる改善を行い即戦力となる人材の育成に努めていく。
- \* 実践的な職業教育のために関連企業現場から人材を派遣して頂き、実技・実習を実施し、インターンシップで企業との連携を体系的に実施している。
- \* 平成31年度より国際航空ビジネス科のカリキュラムに「サービス介助士」の取得を取り入れ業界のニーズに対応したより実践的な教育を行っている。
- \* 研究授業に実技教育、学科業育、他分野の教員が参加し授業内容についての意見交換を実施し授業に反映している。
- \* 授業だけではなく放課後特別講習、外部講師による講習を実施し資格取得を向上させている。また、英語力向上のための教育指導を継続し上位資格の取得を図っている。
- \* 教職員の能力開発のため、専攻分野における実務に関する研修及び、指導力向上のための研修、研究授業などを計画的に実施しているが、さらに関連分野における先端的な知識・技能の修得のために研修等を実施し資質向上を図っていく。

#### ■ 4 学修成果

評価項目	評価(4～1)
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

#### 状況および課題と改善策

- \* 国際航空ビジネス科は9年連続、空港技術科、航空整備科は7年連続就職率100%を維持している。近年、採用試験1社目での合格率高く、この状況を維持するため本校の特色である人間教育と実践教育の充実を更に進め、企業と連携した教育を積極的に進めていく。
- \* e-ラーニングシステム、電子黒板の導入により予習、復習の徹底及び進捗状況の把握を図り学習効果を向上させてきた。e-ラーニングの効果も徐々に出てきているが活用方法を更に工夫をして資格取得率の向上を図っていく。
- \* 平成30年度は29年度に比べ退学者が増加した。退学者を減らすため外部カウンセラーと担任の連携だけでなく教職員全体で情報を共有し、メンタルヘルスケアときめ細かな対応をする事により、退学率低減を図っていく。学生数の増加に伴い養護教員を増員し対応している。
- \* 航空業界の裾野拡大のための各種取り組みに卒業生のOB、OGが参加し、裾野拡大に大きな効果をもたらしている。教職員も定期的に就職先企業を訪問し、卒業生の状況やニーズなど情報交換を行い教育に反映させている。また、本校の特徴としてOB、OGが学校を訪問する機会が多いので、その機会を利用して状況の把握に努めている。

## ■ 5 学生支援

評価項目	評価(4～1)
学生相談に関する体制は整備されているか	4
就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4

### 状況および課題と改善策

- \* 担任制度を導入し、学生が悩み事や学業・進路の相談を行いやすい環境を作っている。今後も担任以外の教員も学生への対話を積極的に行い、様々な角度から学生の小さな変化にも対応出来る様な環境を構築していく。
- \* 本校は就職先企業と非常に良好な関係を築いており、就職内定率も100%を継続している。学生の企業研究の際、資料閲覧を紙媒体で行っており不便なところがあったため今後は学生がリアルタイムに最新の求人情報等が取得できるように、既に導入されているe-ラーニングの中に就職情報ページを作成し、運用していく。
- \* 養護教員が2名常駐し、日常生活で起きるケガや発病に対して、初期治療を含めて迅速に対応している。また、外部のスクールカウンセラーによるメンタル面での相談にも応じている。  
また、学生の健康診断の結果に応じて個別に面談を行い、給食部の栄養士も交えて食生活のアドバイス等も行っている。
- \* 本校では体育会系14部門、文科系4部門の部活動が活動しており、体育会系では北海道私立専修学校各種学校連合会主催の大会等に参加し、文化部では地域のイベントへ参加し、活動成果を発揮している。誰もが自由に入ることが出来、学科・学年を超えて交流の輪を広げることが出来る。
- \* 生活環境においては、本校には食堂が設置されており、寮生は朝・昼・夕、通学生は昼に食事をとることが出来る。また、管理栄養士が学生の健康面を考慮し、食事メニューを作成している。  
また、24時間体制で管理された学生寮も設置されており、規律の守られた環境で安心して生活することが出来る。
- \* 保護者に対しては、出席状況や成績通知を郵送する際に、学生の学習・就職状況や学内の行事等の情報を記載した「アビエーションニュース」を同封している。また、必要に応じて学校から保護者へ連絡を取り、信頼関係の構築をおこなっている。

## ■ 6 教育環境

評価項目	評価(4～1)
就職先企業のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
防災・防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

### 状況および課題と改善策

- \* 社会のニーズを踏まえ、国内エアラインより出向している教員から、最新の正しい情報を得ることが出来ている。また、就職先企業の方をお招きし、学生に対するご講演会を実施し航空業界の現状や求められる人物像をお伝え頂いている。  
 今後は教員個々の企業研究の機会を増やし、学生の進路・面接指導に役立てる。
- \* 訓練用モックアップやドアトレーナー等を備えたキャビントレーニングセンター新設により、CA、GS業務の実践的な実習を実現している他、航空整備科、空港技術科においても教材として活用している。  
 電子黒板、プロジェクターを多数導入済みであり、板書時間の削減、動画やパワーポイントを用いた授業により、学生の学習意欲・理解を促す取り組みを行っている。  
 本校は毎年学生数が増加しており、教室・実習場の不足が懸念されることから施設の増築、新築を行って行く。
- \* 新千歳空港をはじめ、羽田・成田空港等でも、職業実践専門課程賛同企業様のご協力の下、それぞれの学科でインターンシップを行っており、学生は高いレベルで専門性の高い知識・技術を習得することが出来ている。
- \* 放課後も実習場を開放し、教員も立ち会うことで学生個々の技術の向上に寄与している。学生寮においては個人で学習できる自習スペースやグループ学習が出来るスペースを設けている。  
 e-ラーニングの導入により、自宅学習に対する習慣付けを促進するほか、学生個々の課題への解答、学習状況を把握することができ、よりポイントを抑えた指導ができるようになった。
- \* 防災・防犯については、寮監が24時間体制で管理を行い、災害等が発生した際の報告系統ガイドラインを定め、対応マニュアルを作成している。平成30年9月6日(木)未明に発生した「北海道胆振東部大地震」の際には、教職員・学生が一致団結し、迅速な対応を行い、綿密な計画のもと生活物資・燃料等の確保を行い、停電が続く中でも寮生への水、食事等の安定供給を行った。

## ■ 7 学生の受け入れ募集

評価項目	評価（4～1）
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生の募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### 状況および課題と改善策

- \*昨年度より幹部による学生募集会議を毎週開催し、学生募集部と各学科の連携の強化をはかり募集の状況や、定員を充足させるための目標値の設定などを話し合う場を設けた。決定した目標値は学校全体で共有し、目標値を意識する事で平成31年度の入学者は定員を充足させることができた。
- \*各学科の教員が各種進学相談会などに積極的に参加し説明を行うことで、希望者の進路選択に役立つ情報を提供している。
- \*定期的な高校訪問や、航空業界の裾野拡大を目的として北海道内及び全国の空港で「そらゼミ」イベントを開催し、各企業とのコラボレーション企画を実施するなど、従来行っている活動も継続して行っている
- \*高等学校だけでなく、小学生や中学生のインターンシップや学校見学も積極的に受け入れを行い、低年齢層から航空業界に興味を持っていただける仕組み作りも行っている。
- \*高等学校の先生方を対象とした学校見学会を行い、進路相談に来た生徒へのアプローチがしやすい環境作りを行っている。
- \*学納金・有資格者特待生度等は、教育内容や施設設備の状況を鑑みて、同分野の他校と比較検討したうえで決定しており、ほぼ平均的な額と考える。

## ■ 8 財務

評価項目	評価（4～1）
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### 状況および課題と改善策

- ※ホームページにも公開している財務諸表の通り、学園の財務基盤は安定しており、昨年度に比べ学生数も増加している。今後も学生数確保を図りつつ、継続して中長期的な財務基盤の安定に努めて行く。
- ※事業年度開始にあたり作成する予算に対して、予算管理を徹底し、常に経費削減に努めており必要により補正予算を組む等、予算の編成及び執行は適正に実施している。
- ※会計監査は、関連法規により、公認会計士及び監事により適正に行われている。
- ※財務情報については、ホームページに「資金収支計画書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」を公開している。

## ■ 9 法令等の遵守

評価項目	評価（4～1）
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### 状況および課題と改善策

※法令や設置基準を遵守し、適正に運用している。また、職業実践専門課程の水準の維持や指定養成施設の基準を遵守し、法改正があった際は速やかに対応している。

※個人情報の保護については、「個人情報の保護に関する規程」を定め、教職員に周知し、遵守している。今後もより一層の対策強化を図って行く。

※自己評価については、本校では各関係者が自己点数の位置づけ・目的・方針を確認し、実施しており、毎年開催している学校関係者評価委員会において、自己点検結果を報告し、それに対する学校関係者委員会からの評価をまとめた報告書を作成し、課題の改善に取り組み、ホームページに公開している。

## ■ 10 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価（4～1）
学生のボランティア活動、地域交流を奨励、支援しているか	4
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
地域に対する公開講座を積極的に実施しているか	4
中学校・高校等との連携による職業教育の取組が行われているか	4

### 状況および課題と改善策

\*道徳訓育の一環としてボランティア活動・地域交流を学校全体で奨励し、平成30年度は学校幹旋のボランティアとして大規模マラソン大会や地域の夏祭り等の19件に、1,193名（複数参加有）の学生が参加した。多くの学生が活動を通して奉仕の心やコミュニケーション能力を養う貴重な教育の場となった。

\*少年団や各ボランティア団体、チャリティ団体へ校内敷地や体育館などの施設、トラックやイス、机、テントなどの備品についても貸出しを行っている。

官公庁や民間企業へ本校施設の貸出を行い、北海道における航空業界の訓練施設として貢献している。

\*千歳市、商工会議所等が主催する学校見学会の受け入れも行い、様々な分野、年代の方々に本校の教育内容・施設を公開している。

\* 中学校・高校等からのインターンシップや学校見学を積極的に受け入れ、生徒たちの社会学習の一環に寄与している。また、本校からも他の教育機関へ出前講座として出向き、航空業界、職種説明を積極的に行い、航空業界全体で取り組んでいる「裾野拡大」にも貢献している。

## ■ 1 1 国際交流

評価項目	評価（4～1）
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4
海外留学に対する適切な体制が整備されているか	4

### 状況および課題と改善策

- \* 併設の高等学校に留学生が多数在籍しており本校への進学も増えている。  
学生部内に留学生担当を配置しており、入国管理局の手続きの研修も受講しており教員が学生の書類に関しての代行業務を行い、常に支援体制を確保し、留学生も日本の企業に内定している。
- \* 中国語授業数を増やし HSK（中国語検定）を受験させている。
- \* 韓国への研修も実施しておりエアラインの協力を得て現地学生との交流会も実施している。
- \* 国際航空ビジネス科では、平成 29 年度よりニュージーランドに加えオーストラリアでも留学プログラムを実施し、現地の語学学校及び航空専門学校において、語学研修プログラム、客室乗務員の機内サービス、空港カウンターの実習を実施。留学期間中はフルホームステイによる安全面・健康面共に体制を整えており、日本からは担当教員によるオンラインサービスを使ったサポートなども行っている。
- \* 全ての学科の学生を対象にして、アメリカ合衆国ハワイ州、マルタ共和国において夏季休暇を利用して実施できる 2 週間～4 週間の短期語学留学プログラムも取り入れており、4 月に説明会を開催し、異文化交流、語学力の向上をはかっている。
- \* 札幌の語学学校と交流会を行い、札幌会場、千歳キャンパスにてディスカッションや航空業界を目指す学生のカリキュラム紹介などを実施している。